令和元年10月17日　日刊産業新聞

韓国の廃バッテリー輸入

対日途絶も北米で補う

補修用製品、日本に攻勢

韓国の廃バッテリー（使用済み自動車用鉛蓄電池）輸入が完全復活した。同国の貿易統計によると、7―9月期の輸入量は前年同期比22％増の13万445㌧。四半期ベースで4期連続のプラスとなり、過去最多だった2017年の水準に戻して安定している。日本からの輸入が止まったが、北米からの調達を増やして埋め合わせた。リサイクル鉛を使用したバッテリー製品輸出も再び拡大し、日本向けの輸出圧力も強めている。

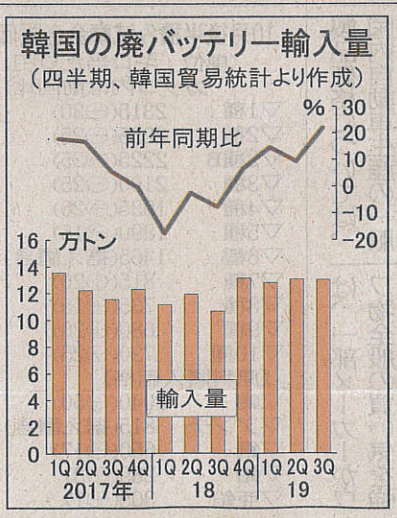
世界最大の鉛二次精錬国である韓国は10年代を通じ、メーカーの能力増強に伴ってリサイクル原料輸入を急拡大してきた。しかし18年、米国と並ぶ廃バッテリーの大手調達先だった日本からの輸入が、法改正した日本側の輸出条件厳格化によって途絶えたため、年間輸入量は前年比5・4％減の46万9874㌧と初めて減少した。

日本からの17年輸入量は10万4235㌧で、対米国（11万2066㌧）と並び輸入シェアの2割強を占めていた。しかし18年は対日輸入が縮小をたどり、その他に中東・アフリカでもインドの高値買いで苦戦。四半期ベースの輸入量は17年10―12月期から18年7―9月期まで4期連続でマイナスとなった。

ここで韓国は、世界中の幅広い集荷ネットワークからの吸い上げ戦略を転換し、北米を注力エリアとして数量回復を図ってきた。

18年9月まで月平均9000㌧前後だった対米国の輸入量は、10月1万5714㌧から19年1月1万9190㌧まで4カ月連続で過去最多を更新。3―5月は2万㌧を超え、5月2万5923㌧は増加前の3―4倍に達した。さらにカナダからの輸入も月2000㌧前後に増え、2カ国を合わせた輸入シェアが全体の5割を超える月も出てきた。

また、ここにきてアラブ首長国連邦（UAE）、イエメン、トーゴ、リビアなどの中東・アフリカ地域からの調達も回復。総輸入量は上向き、今年1―9月累計は前年同期比15・1％増の38万9425㌧と、17年を上回る過去最多ペースだ。対日輸入がストップした影響の形跡はなくなり、一時は原料不足で操業率を落としていた二次精錬業も復活している。

リサイクル鉛を原料ソースとする韓国の自動車バッテリー製品の7―9月輸出は、前年同期比15％増の18万7967㌧で4四半期連続のプラス。18年は廃バッテリー調達難で19年ぶりに前年比ダウンとなったが、今年は廃バッテリー輸入と連動して2桁増と勢い付いている。最多輸出先の米国向けが20・4％増の2万9877㌧と大きく伸びており、廃バッテリーのリターン集荷で築かれてきた関係が強化されてきたようだ。

また、日本向け輸出も7―9月は17・4％増の1万3349㌧と過去2番目の高水準を記録。日本国内の補修バッテリー市場のシェアでは20％超と推定される。かつて販売競争激化の一因だった韓国からの輸入バッテリーだが、ここ数年落ち着いていた販売攻勢が再び強まりつつある。